



No.156

2017年5月号

# ウトナイ湖通信

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

## トピックス

### 「ハクチョウかるた」が完成しました

昨年の「ハクチョウすごろく」に続き、館内にまた、新たな遊びモノが登場。それが「かるた」です。言わずと知れた古くからある遊戯で、札に書かれた句を詠み、その句にあった絵札を取り合って競います。

読み札も絵札も、日本野鳥の会の4人のレンジャーによるオリジナルです。ひとつ紹介すると、「れつをなしわたるハクチョウはるのそら(列を成し渡るハクチョウ春の空)」。遊びながらハクチョウ類の生態を学ぶことができます。図書コーナー横の「子ども部屋」に置いてありますので、ご家族やグループで、ぜひ遊んでください。



完成した「ハクチョウかるた」  
みんなで遊んでね



### この春のガン類の渡り

宮城県などの越冬地から繁殖地のロシアへ向かう途中の春、ウトナイ湖に立ち寄るマガンやヒシクイなどのガン類。当センターでは、個体数の季節変動や年変動を把握するため、毎年カウント調査を行なっています。

全国的に見ても渡来数が年々増加しているマガン。ウトナイ湖でもその傾向にあり、昨年3月には「10万6千羽以上」を数えたため、今年はさらに多くなるか、と予想していたところ、意外にも3月19日の「5万5千羽以上」が最多。積雪が多く、また湖の氷がとけるのが遅かったため、周辺に分散してねぐら(夜を過ごす場所)をとったからとも、次の目的地である空知地方の雪どけが先に進んだからとも考えられます。



3万5千羽以上を数えた3月15日の早朝



### 夏鳥が続々と渡って来ました

冬鳥のハクチョウ類やガン類がロシアへ向けて去る一方、本州以南や東南アジア、遠くはオーストラリアから、繁殖のため、北海道に渡って来る夏鳥が見られるようになりました。



4月25日に今季初確認されたニューナイスズメ(オス)

この春、最も早く渡来したのはヒバリ。声での確認でした。その後はヤマシギ(26日)、キジバト(4月7日)、コチドリ(10日)、モズとアオジ(13日)、ツバメ(15日)、クロツグミ(18日)と続いています。この先は、キビタキやオオルリといった姿よし、声よしの小鳥が確認されるでしょう。木々にはまだ葉っぱがなく、姿を探しやすい時期でもあります。5月28日には夏鳥ウォッチングも開催します。さえずりを聞きながら、深緑の水辺や林を歩いてみませんか。



ベニマシコ

【自然観察路情報】

2017年4月14日(金)10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

オオハクチョウ、オオセグロカモメ、トビ、マヒワ、ベニマシコ(以上、姿)  
アカゲラ、カワラヒワ(以上、声)、シジュウカラ(さえずり)、キバシリ(姿とさえずり)

《植物》

イヌコリヤナギ、キタコブシ(以上、冬芽)、フッキソウ(つぼみ)  
ハンノキ、ナニワズ エゾノバッコヤナギ、アキタブキ[ふきのとう](以上、花)

《植物》

オツネトンボ、クジャクチョウ、セイヨウオオマルハナバチ(以上、成虫)  
オビカレハ(卵)、エゾアカガエル



キバシリ



アキタブキの  
ふきのとう



オツネトンボ

【水鳥カウント調査結果】

2017年4月13日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 \*( )内は個体数、(±)は「前後」の意味

マガン(2)、コブハクチョウ(4)、オオハクチョウ(1)、ヨシガモ(3)、ヒドリガモ(13±)  
マガモ(85)、オナガガモ(19)、コガモ(2)、キンクロハジロ(1)、スズカモ(57)  
ホオジロガモ(4)、ミコアイサ(1)、カワアイサ(23)、カンムリカイツブリ(1)  
ミサゴ(1)、トビ(5)、オジロワシ(1)、チュウヒ(1)、ハクセキレイ(2)



オナガガモ



5月の自然予報

冬鳥と交代するかのようには渡来した夏鳥を観察できます。

下旬にはエゾセンニュウの「ジョッピンかけたか」という特徴ある声が聞かれるでしょう。



ズミの白い花が湖岸の観察路を彩る

上旬にキタコブシやエゾヤマザクラが開花するでしょう。湖岸を彩るズミの花は、例年だと中旬から下旬に見頃を迎えます。クロミノウグイスカグラ(ハスカップ)のクリーム色の花が見られるのもこの頃です。

黄色のキジムシロやエゾタンポポ、青色のフデリンドウやタチツボスミレの花が地面で見られるでしょう。下旬には白いマイヅルソウが開花します。



フデリンドウの花  
曇りの日には閉じて、まさに筆のようになる

中旬からはエゾハルゼミの「ミヨーケン、ミヨーケン、ガガガ・・・」という声が林から聞こえてくるでしょう。水たまりではエゾアカガエルのオタマジヤクシが見られます。



奇妙な声を出すエゾハルゼミ



【(エゾ)オオマルハナバチ】

ミツバチ科に属するこの仲間は、その名のとおり、からだ丸く、また、毛深いのが特徴で、蜜や花粉を求めて花から花へと飛び回ります。写真は、クロミノウグイスカグラ(ハスカップ)を訪れた時のものです。

よく似た仲間に、特定外来生物のセイヨウオオマルハナバチがあり、ウトナイ湖周辺でも確認されていますが、腹部の先端が白く、他のマルハナバチ類と見分けることができます。



\* 当センターが開館してから15周年を迎える今年はそれになんだクイズを出題していきます！  
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 当センターでは、車と衝突するなど人の生活が原因でケガを負った野生鳥獣の救護活動を行なっています。さて、開館から15年間で最も多く保護された野鳥は、次のどれでしょう。

(あ) センダイムシクイ



(い) シメ



(う) ハクセキレイ



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ヤマシギ

2017年 4月 2日 9:50 くもり

苫小牧市内で保護。

体重 295g



骨格に異常は認めなかった



10:40 第一発見者により当センターへ搬送。初診において、左脇に外傷を認めるも、すでに患部は乾燥しており、原因が人工物の衝突等によるものかどうか、判断がつかなかった。直ちに患部を消毒し、外用薬を散布。  
しばらく経過観察としたが、安定した全身状態と十分な飛翔力を確認し、同日中にリリースにいたった。

ヤマシギ (チドリ目シギ科)

北海道へは夏鳥として渡来し、繁殖します。平地から山地の森林や耕地に生息しています。夜行性で、森の上空を鳴きながら飛び、林床を歩きながら嘴を地面に差し込み、落ち葉の下などに潜むミミズや昆虫を捕食します。

## イベント情報

### 春のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：4月29日(土・祝)、30日(日)  
5月3日(水・祝)、4日(木・祝)、5日(金・祝)  
6日(土)、7日(日)

各日 10:00～16:00 (受付時間)

対象：どなたでも

申込み：不要。当日 10:00 から随時受付  
(受付終了は 16:00)

内容：約 500m の自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された春の自然に関するクイズに挑戦いただきます。ゴールでは答え合わせをし、参加賞をお渡しします。

### ウトナイ湖・夏鳥ウォッチング

日時：5月28日(日) 10:00～12:00

対象：どなたでも(小学生以下保護者同伴)

定員：申込み先着 20 名(5/2 から受付開始)

内容：南の地方で冬を越していた夏鳥たちが渡ってきました。林や湖岸を散策しながら、センドタイムシクイやキビタキなどの姿とさえずりを楽しみましょう。



## お知らせ

### 年間予定表を配布しています。

今年度もぜひ、当センターが主催するさまざまなイベントにご参加ください。なお、行事予定表は、当センターHP からダウンロードできます。どうぞご利用ください。



## 市民ギャラリー

### 写真展 「野鳥展」

日時：5月2日(火)～5月20日(土)

展示：笠水上 徹明さん

### 木工展

「ウッドターニング・ボールターニング」

日時：4月23日(日)～5月21日(日)

展示：金子 進さん

### ◆ウトナイ湖◆

周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。

鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

### ◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

### 【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前 9 時～午後 5 時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

